

真夏の夜の夢

高橋義孝

親戚の~~身~~心

一時

~~身~~心

再び

~~身~~心

二十歳の近頃親戚の流彼四十歳で死した

の身の上をふと思ひみることにあつた。あつた時は、あつたことにしるべきで、死んでしまつた人のことか、しるべきと思ひあされる

空襲で一家六人全滅した親戚がある。私に

とつとは叔父に当る人が、^{あつた}人、^{戸主は}

は、今ではさうさうにはいまいだらう。

生れは埼玉とか、幼い時から東京の唐物屋（

洋品店）に奉公にあされ、のち独立して神田

に洋品店を開いた。昔風の~~洋品店~~商人の

典型かつたと思う。一作に昔の方が高人は家

想がよかつた。今日の商店は、主人も従業員

も、官庁の役人のように不孝想とか、昔の